

すばる

写真館

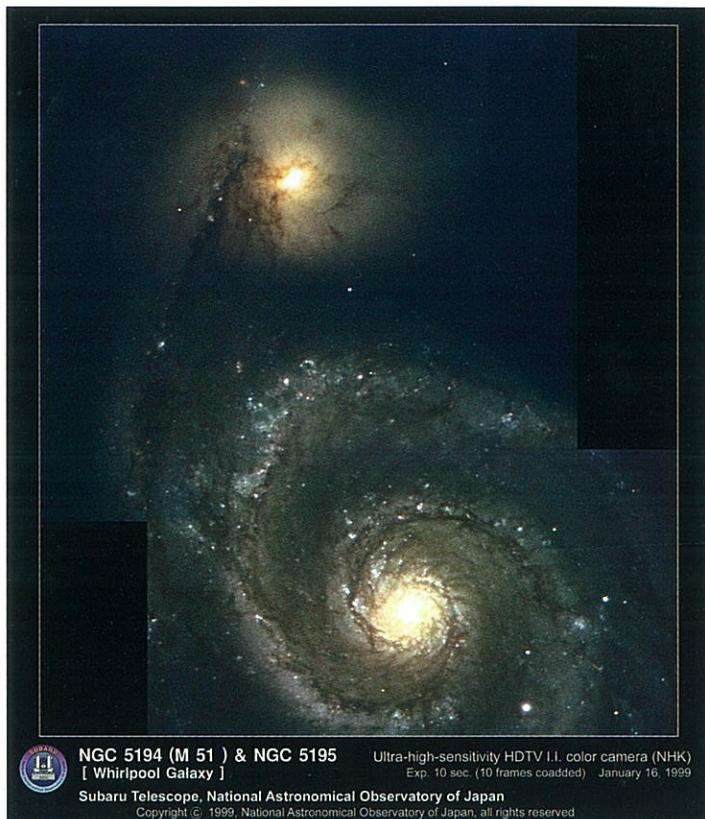
08

■ NGC5194(M51)& NGC5195

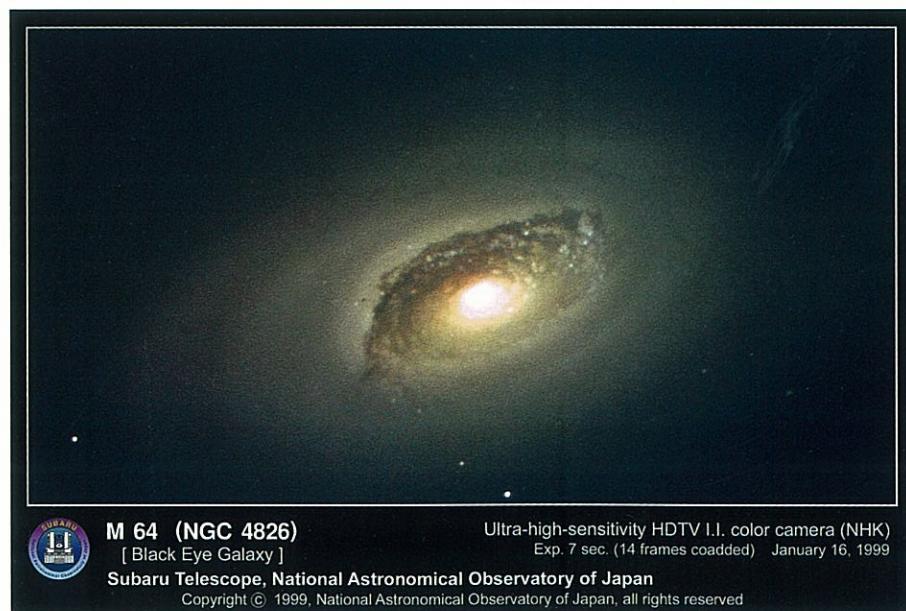
★ M51 (NGC5194) は、メシエが 1773 年に発見した。そばの伴銀河 NGC5195 の発見は、その 8 年後になる。1845 年になってロス卿が初めてこの銀河の渦巻構造に気づいた。日本では「子連れ銀河」としてよく知られているが、英国ではロス卿の「?型星雲」と呼ばれたこともある。筆者も今回初めて知ったのだが、1866 年にすでにハギンスがこの銀河のスペクトル観測をしたらしい。

M51 の際だった渦巻き構造は、NGC5195とのニアミスの結果である。銀河と銀河のニアミスをさまざまな軌道でコンピュータシミュレーションして、M51 の変形を見事に再現したのは、1974 年のトゥームレの研究である。1979 年に筆者が渦巻銀河の学位論文をひっさげて、トゥームレ博士を訪ね、ボストンのご自宅に泊めて頂いて議論したことを懐かしく思い出す。トゥームレの講演はウィットに富んでいて、聴衆が何度も爆笑するのが常だった。

(光赤外研究部 教授 家 正則)



■ M64(NGC4826)



★銀河の中心部の手前に星間塵による著しい暗黒吸収帯があり、これが不気味な目のように見えることから「黒眼銀河 (black-eye galaxy)」と呼ばれている。M64 は一見、ふつうの美しい渦巻銀河のように見えるが、M51 よりも劇的な大事件を 10 億年以上前に経験しているようである。というのも、この銀河の周辺部のガスと星は内側の部分とは逆向きに回転しているのである。黒眼と呼ばれる原因となった大量の星間塵も、

おそらく別の銀河との衝突合体事件のなごりであろうと考えられる。人間の世界と同様に、天界においても波乱の生涯を送る銀河は少なくないようだ。

(光赤外研究部 教授 家 正則)